

仙台司教区 教区事務所だより



(第 42 号)
昭和56年4月1日

新しい信仰生活の出発のため
によりよき四旬節の準備を！

キリシタン時代、四旬節は、「悲しみ節」と呼ばれていた。イエズス・キリストが苦しみを受け、十字架の上で亡くなられたことをしのぶ典礼季節である。昔も今もすべての信者は、「至らない私」の救いのために、苦難に身をゆだねたキリストを思つて深い悲しみに沈み、浮き立つ心を抑え、目を伏せてつづしみの日々を過ごす。十字架上で殺されたキリストはやがて三日目によみがえり、教会はその復活を盛大に祝うのである。

苦しみが大きければ、次に来るよろこびもまた大きい。四旬節の精神をよく理解して、信仰生活の中に正しく生かし多くのぎせいを積む者は、ご復活祭のアレルヤをより大きなよろこびをもって歌うことができよう。このよろこびはさらに、ご復活祭から始まる新しい信仰生活のための大きな力となる。
ところで、今年の復活祭を私たちは、いつ

もより満ち足りた思いをもって迎えることが出来るようだ。先日、私たちのパパ様、教皇ヨハネ・パウロ二世が親しく日本の教会を訪れて下さったからである。あの湧き立つよろこびと深い感動は、今もまだなまなましく残っている。日本の教会はまことに少数の、全く取るに足りないような存在だが、思いがけない教皇の来日で、なにか強い連帯感に支えられ、自信を与えられたような気がする。教皇が日本で残された数々の言葉や行いを改めて思い、深くかみしめるに、四旬節の静けさをもっともふさわしい時であろう。
春のさざしが感じられるとはいえ、まだ冬の最後のきびしさが残る四旬節を大切にしよう。これまでの私自身の信仰態度にきびしい反省の目をむけ、生活の刷新と回心(悔い改め)を決議しよう。ことさらに多く祈り、痛みを感じるべきせいを、卒先して実行しよう。

そして、カトリック信者としての自覚を、しっかりと植えつけるよう努力しよう。こうして養われた信仰の力が、ご復活祭によって新しく始まる信仰生活をすばらしいものにすると共に、新しく活動を開始する教区、小教区教会の宣教活動の源泉となるのである。

「私がお会いした人々、またお会い出来なかつた人々にも、友愛と祈りのきずなで固く結ばれていることを知っていただきたい。信仰において、私はいつも皆さんと共にいます。キリスト教的愛と奉仕の精神をこの国にもたらした聖フランシスコ・ザビエルの理想を、いつまでも保ちつづけて下さい」(教皇の離日のメッセージ)。

司教様の日程

(3月12日現在)

- 4月6日 教区司祭団役員会
- 15日 聖香油ミサ、司祭志願者認定式、教会奉仕者任命式(元寺小路・2時)
- 16日 主の晩餐の夕べのミサ(同・6時半)
- 17日 主の受難の祭儀(同・6時半)
- 18日 復活の聖なる徹夜祭・入信式 (同・7時)
- 19日 復活主日ミサ(同・9時半)
- 20日~22日 男子管区長協議会 (東京・イエズス会黙想の家)
- 26日 松木町教会堅信
- 5月3日 三沢キャンプ堅信
- 4日 教区司祭団役員会



広瀬川殉教祭

* 教皇様訪日の前日に行う

教皇様の来日を目前にした2月22日(日)、仙台市の広瀬川畔で恒例の殉教祭が行われた。いつもは元寺小路教会から仙台の目抜き通りを抜けて、広瀬川大橋のたもと仙台キリシタン殉教碑前までロザリオ行進をしていたが、今年は教皇ミサのため上京する人が多いので行進をやめ、殉教碑前で式典のみ行った。

今年初めての試みとして、信徒の小野英夫氏(一本杉教会)が説教を担当し、現代の物質文明の社会の中にあつて、日常生活の中でキリスト者としての信仰を守り通すことの困難をうったえ、自分は日常生活で何を一番大切にしているか自問しながら、祖先が血と涙で残してくれた信仰を大切に守り育て、周囲の人へ信仰の恵みを分かちあいたい、信徒としての心構えを表明し参加者に深い共感を与えた。

教区目標など話し合う

第15回

岩手地区信徒連絡会代表者会議

第15回岩手地区信徒連絡会代表者会議が、3月1日午前10時から岩手カトリック・センターで開かれた。

内容は次のとおりである。

(1) 昭和56年度仙台教区司牧的年間目標をはじめとする、第八回司牧評議会議題

(2) 岩手カトリック・センター81年度事業計画

教区目標のテーマ、「家庭を通してキリストの愛を広げよう」については、

● カリタス・ジャパンの機能がわかっていない。カトリック組織の認識が不足している。

● 身近なところで愛の実行が大事だ。

● 自分自身にそれなりのものがあればよいが、中途半端で他に介入するのは危険だ。

等々、多くの意見が出された。

その他の検討課題についても、活発な意見交換がされ、司牧評議会に提起することとなった。

また、センター活動については、昨年の計画を継続発展させると共に、新たに、信徒のかくれたタレントを引き出し、生かす手段の一つとして、県内信徒名簿をつくること、などの原案をそのまま理事會に提案することとなった。(志家教会・北川好健)

仙塩地区カトリック壮年連盟

昭和五十六年度総会

2月15日(日)、元寺小路教会において、同連盟の総会が、司教総代理・三浦平三神父様、指導司祭・土井文雄神父様をはじめ同地区の9名の神父様方、および壮年信徒35名が参加して開催された。

9時30分からのミサ聖祭ののち、11時から総会、ひきつづいて懇親会が行われ、午後2時すぎ解散した。

本年度の事業計画は、「壮年として福音宣

教にどう取り組むか」を課題として採択。研究懇話会の開催、特別行事の充実、教区経済への理解と協力、家庭における信仰教育の推進、の四目標をめぐって活発な意見交換がなされた。

任期2年間の新役員として次の諸氏が選ばれた。

会長・岩下新太郎(元寺小路) 副会長・

佐藤健治(塩釜)、鈴木和義(西仙台)

書記・大友八郎(八木山) 会計・早坂豊

四郎(東仙台) 会計監査・宮野一郎(北

仙台)、小野英夫(一本杉)

人事異動

(2月16日発表、4月1日付)

小野忠亮師 引退(一関教会主任)

佐藤守也師 一関教会主任、愛心幼稚園長兼

千厩教会主任、清心幼稚園長

(千厩教会主任、清心幼稚園長)

笹気直哉師 元寺小路教会助任(司教館)

十 帰天

渡辺吉徳神父(ドミニコ会)

去る56年3月5日午後7時45分、ドミニコ会の渡辺吉徳神父様が東京小金井の桜町病院ですい臓ガンのため亡くなられた。享年83歳。

渡辺師は仙台教区の大河原教会、北五十人町の教会等歴任、教区のために尽力された。

葬儀ミサは、3月9日(月)、午後1時から、

東京・南平台修道院で多数のドミニコ会司祭

方の共同ミサで故人の冥福を祈った。

仙台教区現勢統計表(1980.1.1~12.31)

昨年12月31日現在の仙台司教区の現勢統計がこのほどまとめられた。

これによると、仙台司教区内に在住する信者の総数は12346人。仙台司教区内の全人口の中で信者の占める割合は、全国平均の約半分、0.17パーセントで、乱暴に数字にすれば、信者1人は572人に対してパン種となっている、ということになる。

司祭と信徒との比率は1対148、また、司祭・修道者と一般信徒とは1対28である。

今回の数と前回とを比較すると、居所不明者数は減ったが信者総数はほぼ同じである。目につくこととしては、幼児洗礼が増えたこと、臨終洗礼及び病者の塗油が増えたこと(これは老人ホーム、病院等での司牧活動に力が入れていることを示すであろう)が挙げられるが、逆に短大と高校を除いては中・小・幼、そして教会学校でも児童・生徒数が減少している。また、転出が転入より多いのは数年来のことである。

1. 概況

面積 45958.58 km²(宮城, 青森, 岩手, 福島)

① 司祭合計欄の()内は
教区外居住者をさす
修道会の()内は志願者数

人口 7070714人 (信者数 12346)

県別		宮城		青森		岩手		福島		合計		前年度	
信者総数		4677		2447		2359		2863		12346		12336	
居所不明者		474		120		142		297		1033		1099	
求道者		103		65		33		146		347		361	
教会数		17		13		13		14		57		57	
分教会						1				1		1	
巡回教会		3		1		2		3		9		9	
布教所		1		1		2		5		9		8	
男子修道院		1								1		1	
女子修道院		13		7		4		6		30		30	
会別	国別	邦人		邦人		邦人		邦人		邦人		邦人	
		外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	外人	
司教		2								2		2	
教区司祭		23(2)		1		5		2		30(2)		1	
宣教・修道司祭	ドミニコ会	1						10		11		10	
	ベトレヘム会					17				17		17	
	ケベック会	4		12						16		19	
	グアダルベ会							1		7		6	
司祭合計		25(2)		6		5		12		2		17	
神学生				(1)		(1)		(1)		(1)		(1)	
修道会	ラ・サール会	3		2						3		2	
	フランシスコ会			29		13		1		42		1	
	聖母被昇天会			23(8)		11				23(8)		11	
	盛岡ドミニカン会					33(2)				33(2)			
	会津ドミニカン会							6(1)		6(1)			
	ドミニコ女子	33		2						33		2	
	シャルトル聖ウロ	22				15				37		36	
	聖ウルスラ会	32(3)		4		15		5		47(3)		9	
	善き牧者会	6								6		6	
オタワ愛徳修道会	6(1)		5						6(1)		5		

	宮 城		青 森		岩 手		福 島		合 計		前 年 度	
聖ヨゼフ布教 ド・ノートルダム	7						19	7	19	7	21	8
無原罪聖母会							7	14	7	14	7	14
聖パウロ女子 イエズス孝女会	7						1	2	1	2	1	2
聖母訪問会(注)	2								2			
計	118(4)	13	67(8)	16	61(2)	1	33(1)	23	(15) 279	53	(6) 282	57
聖母カテキスタ会			1		2		1		4		5	

(注) まだ修道院として創設されていない。

統計のための正式な登録は、鎌倉の本部修道院においてなされる。

2. 社会事業

	数	人 数	前年度人数
病 院	1	ベッド数 85	ベッド数 85
診 療 所	1	年間診察数 5,980	年間診察数 1,500
老人ホーム	4	239	240
精薄者施設	1	1	48
養護施設	6	439	450
保 育 所	8	594	580
寮	2	20	41

3. 教育事業

	数	生 徒 数	前年度生徒数
短期大学	3	1,154	1,162
専修学校	1	77	85
高等学校	8	5,845	5,695
中学校	7	1,109	1,159
小学校	8	1,932	2,032
幼稚園	54	9,079	9,607

	信 徒	未受洗者	計	前年度数
教会学校 児童	510	1,034	1,544	1,698
子どもの 要理研究	438	202	640	740

4. 秘跡・移動

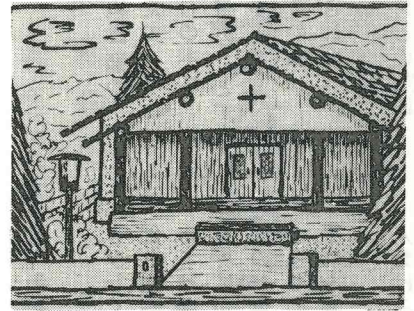
		1980年度	前年度数
洗 礼	成人	133	132
	幼児	109	95
	臨終	51	23
堅 信		147	220
病者の塗油		69	55

		1980年度	前年度数
結 婚	信者同士	9	6
	非カトリック 者と	0	0
	非キリスト 者と	84	75
転 入 (教区外より)		202	142
転 出 (地区外へ)		275	234
死 亡		64	69

おらが教会

(7)

盛岡・志家教会



人口約二十二万人の盛岡にカトリック信者は約千人。教会は三つある。四ツ家教会（カトリック・センター）、上堂教会、そして志家教会。種々の活動は、どうしてもセンターが中心になる。志家教会はその陰になり、センターを応援するカタチが多い。

志家教会は市の中心にあり、岩手放送局の向かい、バスセンターまで徒歩四分、中央郵便局まで六分、市役所まで八分というところ。

志家教会の聖堂は、落ち着いた木造建築で日本的。信者の数は約二百人。司祭一人、伝道婦一人の家族である。同じ土地にベトレム外国宣教会の本部があり、教会の伝道館は一般の人に広く使用されている。三つの合唱団が毎週一回ずつ練習しており、木曜日は英語教室、土曜日は琴教室がある。その他町内会の総会や、会議、子どもクラブ、婦人の集まり等にも利用され、聖書研究、要理の研究会は毎週五回ある。

志家教会には、オフセット印刷機があるので、センター等の印刷はほとんど志家で行われている。東京のピエタと札幌の光明社で売られている結婚証明書も当教会で作成した。前にはよく、心のもしびラジオ番組を製作していたが、今は少なくなり、今はC・M・スポットを担当している。聖書スゴロクも作っている。

「祝福の本」の製作は昨年、58ページにおよぶ「祝福の本」を作ったが、これは、日曜のミサ後、信者がグループに分かれて何度も集まり、半年後に完成した。この本には次のような祝福の式が紹介されている。家庭、子供、病人、妊婦、家、自動車、厄年と厄払い、くわ入れ式、棟上式等。

また、オルガニストのいない教会、聖歌で苦勞している教会のために、志家教会では聖歌を録音し、季節に合わせてその教会のためにコピーし、利用していただいている。教会では、聖歌をテープで流し、信者がそれに声を合わせて歌うことができるわけである。

主任司祭シメオドリン神父の顔の広いのは、よくラジオ、テレビの番組に出演するからである。その上、大工、ペンキ塗り、和文タイブ、写真、映画などなんでもプロ級である。

日曜日の説教の内容をわかりやすくするために、オーバーヘッドプロジェクターを使用している。

今年は志家教会は二十五周年を迎えるが、外面的な祝いをやめ、そのかわり、今年は福祉事業に向けようと考えている。



小さな背に真新しいランドセルの一年生。うれしさと不安の中にも、何かさわやかな新しさを感じられる。新社会人も、あの遠い昔の小学生の頃を思い出すのか、同じような表情をする。そんな顔によく出会うのがこの四月である。四月、それは新しさとさわやかさ、そしてちょっぴり不安の入りまじった月。

若手司祭の一人、M師はつい最近一時帰国の途についた。M師の送別を兼ねて、若手司祭達は雪の降りしきる盛岡郊外でいつもの集いを開いた。席上、M師は宣教師として日本に来るキッカケとなった12年前の出来事を語った。

先輩の神父が休暇で帰国したとき、ミサ後聖堂前に、日本のお土産を並べて売店を開いた。当時神学生であったM師はその手伝いをし、売り上げ金（日本の幼稚園の建築資金となっていた）を持って行くと、「あなたは私の教会の助任司祭だ」と言われた。本当に日本に行きたかったM師は、「でも、私はそんなに優秀でもないし、日本語もむずかしい」と言ったら、「すなおな心とキリストのみを信じられるなら」という言葉が返って来たという。

この言葉に支えられて、神学生として、司祭として日本にとどまり続けたM師は、四月の表情をただよわせながら、再び日本に帰ることを約して、メキシコへと発った。

(狼河原)

託石の声

教皇様

ご訪日に接して



(1)

◎思いがけなく、会場でパパ様から直接御聖体拝領のバッジを渡され、夢ではないかとびっくりした。主人も願ったが、これは断られた。あの優しいお顔が私に近づいた時、喜びともおののきとも知れぬ感激でゾクゾクとした。拝領後席に戻るまで無我夢中でした。

(福島・佐藤サイ)

◎ゼノ修士との御対面をテレビで見し、パパさまのお気持ち、そしてゼノ修士の感激がひしひしとこちらにも伝わってきて感無量で

歌 教皇様ご訪日を感謝し奉る

賛

アンナ・菅 由美子 (遠野教会)

汲めど尽きせぬ恩寵の
泉のめぐみ携えて
君はきませり日の本に
富士の高嶺の雪のごと
気高く白きみ姿と
強くやさしきその瞳
春の光に照らされぬ

ああキリシタンこの国に

した。聖書の一節を目のあたりにしたような有り難い場面でした。(小名浜・江尻 翠) ◎私は2月23日、各県信徒代表の一人として教皇様に特別謁見の栄を受けたことは、生涯忘れえない喜びです。

もしキリシタン時代の信者が、今日の恵みにあずかったなら、彼らの喜びと、受ける天上的靈性の深さは、我々の比ではないだろうと知らされ、キリシタン殉教者の信仰の偉大さをあらためて知らされました。(仙台・和野邦義)

テレビでお会いしたパパ様へ(ウルスラ小)

◎パパさま日本にいらしてくださいあってありがとう。パパさまにお会いしてみんながいい人になりました。(一年・きくちつねひろ)

◎パパさまは戦争がきらいですね、私も大き

今こそやめよ戦いを

今こそ棄てよ核兵器

全世界の若者よ

共に手を取り勇ましく

正義と愛と友情の

世界求めよ速かに

ああこの国の信徒たち

永遠の生命を抱き合う

父を迎えし喜びは

そも何物にたとえべき

かくまで人を動かせし

著しきためしはあらざりき

デオグラチアスとひたすらに

らいます。小さなけんかが大きくなって国と国にはくだんが打ちこまれて、たくさんの人が死んでしまいます。せいかいはみんなきょうだいなのになぜせんそうをするのですか。どうか、これからはせんそうをやめるようにみんなにいつてください。(二年・山川昭子)

◎教皇さまはぼくたちのためにいっしょうけんめい日本語を練習してくださいました。ぼくたちにもよくわかりました。しんけんにはぼくたちに伝えようとして、すごいなあと思いました。(四年・佐藤真司)

◎教皇さま、ぼくの家はお寺です。教皇さまが「何の教え(宗教)でも同じように愛しなさい」といわれた時、ぼくはほんとにそうだなあとうれしく思いました。(五年・清野卓有)

◎教皇様は、ヤングアンドポープで質問した「愛」「希望」「平和」について大変すばらしい返事をしてくださいました。私たちのような小さな子どもにまでやさしくあく手してくれました。私も教皇さまのようになりたい人間になりたいです。(五年・阿部範子)

【編集後記】

*雨と雪の中を力強く歩まれる我らのパパさま、日本のカトリックもそのように人々に印象づけられているだろうか。石の心が肉の心に変わる時、それは可能になる。復活の主に祈ろう。

仙台司教区事務所だより42号

昭和五十六年四月一日発行

発行所 仙台司教区事務所

〒980 仙台市本町一丁目2番12号

TEL 0222 22 7371